

Title	三田哲學會例會記事
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1937
Jtitle	哲學 No.17 (1937. 3) ,p.204- 205
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000017-0204

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田哲學會例會記事

○昭和十一年九月二十五日（金）午後三時三田山上萬來會に於て例會 出席者二十二名。

數論派の實有論

先づ本派の概略及び文獻よりはじめ、三徳の不平均状態としての現象界並びに平均状態としての自性を論じ、更に神我に進んで之等二實有の合離問題に及び、盲者と跛者の比喩によつて之を説明、最後に離苦解脱を目標とする本派の立場からは自性は解脱後に捨離さるべきであり、價値的には神我のみが唯一の最高實有として残ることを説かれ、かやうな價値至上觀が印度思想の大なる特色である點を明らかにされた。

○昭和十一年十月二十八日（水）午後三時半銀座交詢社に於て例會 出席者三十五名。

デ・ルケエムの社會形態學に就て

國家の現實的多様性の問題を先づ經濟關係政治關係及び自然地域等から論じ、次にデ・ルケエムの立場と彼の“Mophologie sociale”を詳述。又彼の諸著作について思想的變遷を説くと共に、“Mophologie sociale”の重要要素を指摘され、その批判並びに氏の立場からの感想を述べて結ばれた。

○昭和十一年十一月十二日（木）午後一時三田本塾一番教室に於て。三田哲學秋季公開講演會

I 形の哲學

守屋謙二君

美學上の形式と内容の問題について、ヘーゲル・ヘルバルト・フィッシャー・リップス・クロイツ等の見解を詳述、次に美學に於ける形式概念の根本的欠陥の原因を、美學が完結せる體系をつくる目的から、すべての藝術領域を廣く包括しようして無理な企てをなす傾向に求め、眞に問題を深化させる爲には狭い特殊な個々の領域に入る必要があることを論ずると共に、問題を「視る」といふ形式に限定しようとする氏の立場を明らかにされた。

II 絶對化……………伊藤吉之助君

フイヒテの哲學を例として觀念論的な絶對化を論じ、自我と非我との對立・乖離は如何に媒介概念を擴大しても救ひ難いことを説明。又唯物論にも觸れて物質の絶對化を考察した後、更にヤスベルスの哲學における Existenz と Transzendenz を説き、結論として絶對化が哲學的にも論理的にも到底不可能である所以を論證された。

○同日午後五時赤坂幸樂に於て。新館正國君渡歐送別會兼懇親會 出席者二十八名。

川合會長の送別の辭及び新館君の挨拶等があり頗る盛會であつた。

○昭和十二年一月二十七日(水)午後三時半銀座交詢社に於て例會 出席者二十一名。

愛の秩序 (ordo amoris)……………天 川 勇君

マックス・シェーラーの未完成の遺稿に就き、彼がパスカルの「心」に關する見方を採入れ、愛を以て客觀的存在の原理となし、又愛に數學的命題以上の確實且客觀的な根據をもつ秩序の存在を強調してゐることを論じ、更に神及び人間に於て此の秩序を考へ、最後に愛の秩序が人間の道徳生活を支配する「エートス」の基本中核をなすことを説明された。

○昭和十二年二月十日(水)赤坂幸樂に於て。哲學科卒業生論文發表並に送別會 出席者二十五名。

午後四時より卒業論文發表、續いて晚餐會に移る。川合、常盤、船田諸教授の挨拶並びに卒業生の感謝の辭があり、盛會裡に終つた。尙卒業生氏名及び論文題目は左の如し。

- ベルグソンの反主知主義哲學……………(西洋哲學科) 間 島 保 躬君
- ハイデッガーの哲學に於ける存在と無の問題……………(同) 関 宅 基君
- 笑の心理學的考察……………(心理學科) 田 邊 秀 穂君
- 分割面知覺の研究……………(同) 中 河 原 通 之君
- 形態の認識時間……………(同) 金 子 秀 彬君
- 學校に於ける self-government に就て……………(教育學科) 川 村 博 通君
- 我國に於ける社會階級の變遷……………(社會學科) 岩 本 興 次君
- 古代中世に於ける自然法思想に關する考察……………(同) 三 宅 幸 治君